

文芸

俳句

騙なまされてくれる人ゐて四月馬鹿 池田 逸子
 木の芽吹く勢いきおい天を突くごとく 伊藤 敬子
 ランドセルだけはびかびか次男坊 今関満喜子
 一枚の上着で悩む春の旅 魚地 照子
 母の影衣はるあかり柎に見たる春灯 江森 悦子
 群青の空切り裂いて夏燕 川島 通則
 鍋冠なべかぶり上人生れし花の寺 向後 寛
 早乙女も早苗さなぶり饗あもなき田植かな 越川せつ子
 見上げれば心の躍る花街道 小松 藤男
 竹の子のうぶ毛に天の光かな 佐瀬 輝夫
 母慕ふ卒寿の翁夕桜 椎名万里子
 そちこちの花盗人はなぬすびとや春の風 市東富美江
 唸りつつ田植機広田を植始む 鈴木とし子

田植行く一直線の青さかな 土屋美枝子
 あの岬あの灯台へ春の雲 土屋 義昭

雨の日は雨に膨ふくらむ木の芽かな 早川 勇
 花冷えや夜はこれからといふ堤 藤田 雅夫

短歌

通販の品物届く夕つ方 指定の時を草抜き待ちぬ

一面の菜の花畑に歓声をあげたる子等は風切り走る 鈴木まさ子
 畦草は刈られ水路に落ちるしか 加瀬 弘子
 白話め草の花も混ちりて 押尾 輝子

嵐の中の岩場越えゆく 水須 俊
 青木家は眺めがいいと縁談に乗り気となりし父にてありき 青木 秀子
 外を行く子ども等の声新学期の賑わいのせて聞こえるなり 浅野 榮子

フェルメールの「天文学者」を観る機会 風邪気味なれとおして出かけり 田崎 尚美

語りつつ通りすぎゆく少女らのセーラー服は少し大きめ 椎名美枝子

少年の歓声と共に軽やかな音弾みあるテニスボールの夜の変更を雨になりしかペランダの屋根にかそけき音の立ち来ぬ 八角 三枝

「チューリップ祭り」の広場踊りある同年らしきが潑刺はつらつとして 芹川 初子
 真つ青にすみ徹りたる春の空 一筋白き雲の伸びゆく 西山満里子
 斉藤つね子

……
 終りなき女の仕事しぐれときとぼしき頭髮に縫針なずる 越川 義則

寒かん疲れ分厚き衣疾く脱はかん 朝のしじまを鶯の鳴く 高梨 キヨ
 車中へと風に舞い散る花びらを散り来るごとに手帳にはさむ 内藤 くに

作品展

◎町民会館ミニギャラリー

6月 写友会
 7月 アート押し花クラブ

◎文化会館ロビー展

6月 水墨画クラブ
 7月 華舟会

◎サビア展

6月 俳句会
 7月 展示なし

◎銚子商工信用組合展

6月 横芝写真クラブ
 7月 展示なし



くらわんか碗

くらわんか碗とは、江戸時代の大阪淀川で、船で往来する人々に向け「飯喰らわんか、酒喰らわんか」との掛け声で飯や酒を売ったことから、飯酒を入れた碗をくらわんか碗と呼ぶ。

このくらわんか碗は、江戸時代中期に長崎の波佐見で盛んに焼かれた庶民向けの安価な焼き物で、白地の磁器に藍色の呉須で梅や松などを書いた径10cmほどの染付磁器で、小ぶりの丸い形を特徴とした。庶民向けで安価であったため、全国的に普及し、なかでも大阪の淀川でよく使われたのであろう。

（社会文化課 道澤 明）



▲町内から出土されたくらわんか碗